JARA 発第１７‐１０７号
平成１７年１０月３１日

都道府県ボート協会御中

社団法人　日本ボート協会
理　事　長　　平岡　英介
強化委員長　　細田　　眞

06 年度強化方針

日頃は日本ボート協会強化事業に深いご理解と多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、各団体の多数のご参加のもと、長良川国際レガッタコースにおけるアジア地域初の「2005 年度世界選手権」派遣事業も無事に終了いたしました。関係各位にご支援ご協力を頂きましたことをこの場を借りて御礼を申上げます。

2006 年度強化方針を以下に策定いたしましたのでご案内申し上げます。

選手所属の団体各位におかれましては選手派遣につきましてご高配の程宜しくお願い申上げます。

記

協会はアテネオリンピックから北京オリンピックに向け 4 年計画の強化方針を立てていますが 2006 年度強化方針はその 2 年目になります。シドニーオリンピックからアテネオリンピックに向けては毎年クルーを選考していましたが、北京オリンピックに向けては継続した強化を標榜しています。

＜強化方針＞

１、A1 チーム　軽量級スカルの強化

2005 年度強化選手 3 名（浦・須田・武田 3 選手）を引き続き強化対象とする

2005 年度に引き続き欧州での強化キャンプを前提とするが期間は関係団体と協議する

A1 スカルチームは優先順位１番とする

２、A1 チーム　軽量級スイープの強化

今冬に選考レースを行い 2～3 組の LM2－を強化対象とする

A１チームは欧州での強化キャンプを前提とするが期間は関係団体と協議する

A１スイープチームは優先順位 2 番とする

費用負担を別途提示する

秋・冬期のロングレースによる選手選考は行わない

３、女子チーム　軽量級スカルの強化
今冬 3 名の選手を選考し強化対象とする
強化は国内での強化を前提とする
女子スカルチームは優先順位 3 番とする
費用負担を別途提示する
秋・冬期のロングレースによる選手選考は行わない
４、Ｕ２３の強化
今冬、男子 7 名・女子 2 名を選考し 2006 年度 WU23 へ向け強化する
男子スカル系 3 名　スイープ 4 名　女子スカル 2 名
従来 6 月に行われていた１X による 2000m 選考レースは行わない
05 年から 06 年に掛け選手を選考し国内で長期の強化を行う
U23 では将来日本のオープン選手の世界挑戦への道を探るべくオープン選手・軽量級選手の選考を行う　クルーは選考された選手の状況により決める
U23 チームは優先順位 4 番とする
費用負担を別途提示する
５、Ｕ１９の強化
高体連強化部と連携を取り強化を行う
費用負担を別途提示する
６、指導者養成
テクニカルディレクターによるコーチセミナーを実施する
普及委員会と合同でコーチ養成システム構築に向け協議を開始する
７、協会加盟団体指導者との定期的なミーティングを実施する

＜コーチ体制＞
テクニカル　ディレクター：ポスティリオーネ・ジョバンニ（イタリアボート協会）
A1 スカルチーム：ポスティリオーネ・ジョバンニ
A1 スイープチーム：選定中
女子：選定中
U23 男子・女子：選定中

＜その他＞
2005 年度報告・2006 年度テンポラリースケジュール・選手選考基準その他別紙参照の事

以上

＜2005 年度報告＞

2005 年度強化事業につき以下の通りご報告いたします。

2005 年度は 50 名という大選手団とクルー編成の中で、選手所属団体のご理解とご協力、また、艇･オール等用具を貸与して頂き誠にありがとうございました。協力団体各位の力強いサポートに心より感謝申し上げます。また、自社においてクルーを指導されながら、ナショナルチームのサポートを快く引き受けて頂きました監督・コーチの方々に心より御礼申し上げます。

1、TOP チーム（A１軽量級スカルチーム）の強化

北京への強化には日本代表選手 3 名（A1 チーム）を選考し 2005 年度より日本ボート協会と契約したイタリア人コーチ　ポスティリオーネ・ジョバンニ氏（以下ジャンニ）の下日本ボート界初の試みである 3 ヶ月間の欧州強化キャンプを行った。

日本選手のフィジカル面の遅れを当初より指摘し、日本では稀になっていたシーズン中のウェートトレーニングやバイク（自転車）トレーニングが加えられ、また水上でのトレーニングも質・量とも大幅に増加した。

出場したワールドカップ第 1 戦イートンでは武田・須田選手の LM2X が 2 位、浦選手の LM1X が 6 位とそれぞれ入賞し、第 3 戦ルッツェルンでは武田選手の LM1X が優勝と好成績をあげた。

日本の期待を背負った世界選手権であったが、ルッツェルン直前からの怪我（疲労骨折や筋肉痛）による回復が遅れ満足の行く状態で戦えなかった。LM2X の 8 位は残念ながらアテネオリンピックでの順位を下げるものであり結果だけを見ると 04 年を超える事は出来なかった。また、北京へ向けてのトップダブルの編成は怪我もあり総ての組み合わせを確認することが出来ず 2006 年度へ向けた課題となった。

しかし、未公認にはなったが浦選手の LM1X 世界最高記録や 7 位という結果は怪我で 2 ヶ月のブランクがあり、しかも復帰後 10 日の結果であった。これは驚嘆に値する結果であり、怪我以前のトレーニングの成果であったと評価する。また、LM2X も世界のトップチームと遜色無いスピードを披露。怪我から回復した須田選手と武田選手のニューペアは、クルーを組んでわずか 2 週間余りで 8 位。アテネオリンピックより順位を下げたとはいえ、困難な条件を克服しながらの結果であり、今後の躍進を予感させるものであった。質・量ともに国際水準のトレーニングを積むことで個々の漕力の向上は目覚しいものがあり北京への強化という意味では方向の確かさと手応えを感じられたシーズンであった。

一方、選手のみの派遣であったため、言葉の不自由さによる意思疎通の問題とトレーナー不在（現地で手当ては出来たが不十分であった）による選手の体のケアの問題が起きた。このため、世界選手権直前の調整が十分に行えず、満足の行く状態で戦えなかった。環境整備は 2006 年へ向けての課題となった。

2、強化委員会とスタッフの役割分担

2005 年度、強化委員会とスタッフの役割を分けた。委員会は強化事業の運営と経費管理、スタッフは現場指導とトレーナー及び学連派遣マネージャーとした。しかし、委員会とスタッフ間の意思疎通に欠け双方に不満が残ったがこのしわ寄せが選手諸兄にいってしまい、大切な練習やキャンプ、また大会中のストレス増幅になってしまった。

強化委員会として反省すべき点が多々あり、コミュニケーション不足解消に向け 2006 年度以降北京に向け委員会・現場スタッフ・選手所属団体・選手の連携を強めて行く。

また、2005 年度世界選手権は多くの団体に選手を供出して頂いたが、同時に様々な情報交換の必要性があった。その中では現行のまた今後の強化事業に対する助言提言を数多く頂ける事が出来た。今後もこの関係を維持すべく水域や年代層別の各団体指導者の方々とのコミュニケーションを取っていきたい。具体的方法は今後の事とするが、フリートーキングで強化委員会と意見交換できる場を設定する。

3、外国人コーチの導入とコーチの評価制度

ボート競技ではアトランタオリンピックから軽量級が採用され、体格的に劣っていた国・地域のオリンピックでの上位進出に望みが持てるようになった。日本ボート協会でもこれを契機に軽量級種目の強化に取り組み、シドニーオリンピックでのLM2X6位入賞、アテネオリンピックではメダル獲得を視野に強化を進めた。アテネではトップコンディションで決勝に臨み僅差まで詰めたものの、残念ながらLM2X6位入賞とシドニーと同じ位置にとどまり、北京でもメダル獲得に向けてステップアップすべく強化の見直しに着手した。日本の中には１０年以上にわたり多大な成果と功績を挙げた大林コーチ以上のコーチがいないとの判断の元、外国人コーチの導入を決定、2004年11月のFISAコーチカンファレンスで接触したイタリア人コーチ・ジャンニと北京までの契約を結んだ。

A1 チームを彼の元に預け、メダルを取るために必要な国際スタンダードとも言うべき練習方法の導入、本場ヨーロッパでの長期キャンプ、と日本ボート協会始まって以来の変革であった。

世界選手権終了後、9 月 22 日岸記念体育館にてコーチ評価委員会を開催し、各プロコーチの評価と強化委員会として 2005 年の評価、また今後の方針について検討を実施し方向を決定した。

4、A2・A3（05 年のみ）カテゴリーの新設とシニア B（U23）の強化

A2・A3 及び U23 層の強化については評価の分かれるところである。A2 に位置付けた M2X はオープン選手が何処まで世界に通じるかの言わば試金石であったが、世界の

壁は厚く、記録的にも日本の LM2X を上回る事が出来なかった。一発決勝の M4+の健闘はあったものの十数年振りに実現したオープン選手の世界挑戦は、将来のために芽を摘む訳にはいかないが、その強化のためには大きなハードルを設定しなくてはならない。

U23（大学生）では女子の躍進が見られた。女子で唯一 A2 に位置付け日本チームで予選から勝ち上がった唯一の決勝進出種目であった LW4X は大学生が 2 名であり、女子は 13 名中 7 名と半数以上が大学生であった。この女子クルーの世代交代は北京以降ロンドンに向け飛躍が期待される。

男子も 6 名の大学生が選出され、大学生 4 人で挑戦した M4X など元気の良い漕ぎを見せてくれたが女子に比べ U23 層男子の強化の遅れを感じさせられた。（後述）

＜2006 年度強化方針説明＞

１、軽量級男子スカル強化

2005 年度強化対象選手 3 名（浦・須田・武田選手）の継続強化

基本的にはジャンニコーチの下北京へ向け強化を継続する。

2005 年度長期欧州強化キャンプがもたらした問題を解決し、選手が練習に専念できる環境を整える。コーチと選手の意思疎通を円滑にするために日本人コーチとボート関係者で語学の堪能な者を派遣する。トレーナー・医師について常時派遣することは困難であるが、医科学委員会の協力を得て何らかのメディカルサポート体制を構築する。

世界選手権が英国で行われる事によるスケジュール調整を行う。

２、軽量級男子スイープの強化

2006 年度は新たにスイープ系の選手も A1 チームに選考し、強化を行う。シドニーで得ていたオリンピック出場資格の奪還めざし、2007 年での出場資格獲得、北京オリンピックでの入賞を目指す

３、軽量級女子スカルの強化

今年度世界選手権代表に U23 層の女子が半数以上入り女子の若返りと今後の強化に期待の持てる状況となった。2007 年での出場資格獲得、北京オリンピックでの入賞を目指す

４、U23 の強化

05 年度長良川世界選手権で、多くの海外クルーの活躍を見たが、国際レースで中心となる選手は漕歴 10 年を越える選手が中心である（もちろん米国男子８＋のような例外はあるが)。特に欧州ではクラブ組織が充実し選手も日本より早い年代からボートに親しんできている。日本でも中学ボートの普及が叫ばれ、普及委員会の努力により全国大会が行われるまでになり、高校・大学の選手の中にも中学時代からの漕歴を持つ選手が誕生してきている。

しかし、日本のボート選手の多くは高校または大学から競技を始めた選手が中心である。従来、U19（高校）は高体連のボート専門部会と連携をとり強化を行ってきた。しかし、大学（U23）はワールド U23 レガッタへの派遣こそ定着してきたが組織だった強化まで手が廻っていなかった。06 年度以降、U23（大学）の組織的な強化に取り組み将来の A1 チーム候補選手の発掘育成に努めたい。

５、U19 の強化

2005 年度と同じく高体連強化部と連携をとりつつ強化を行う。強化キャンプ・世界ジュニア選手権派遣など例年と同様の強化スケジュールをこなす予定である。高体連は強化部の連携が強固であり、組織的な強化が出来る体制になっている。将来の A1 チーム候補選手の発掘育成に期待が掛かる

６、指導者養成

2005 年度ジャンニコーチの指導を受けた中で指導者育成システムの遅れが改めてクローズアップされた。イタリアで指導を受けた A1 選手のコメントにもあるが、イタリアでは北と南のコーチの視点が一緒であり、国内の指導者育成が組織的になされてきた証となっている。ジャンニコーチが日本の強化キャンプに初めて参加した時指導者育成の必要性を指摘された。言われるまでも無い事ではあるが改めて指導者養成の制度開発研究に普及委員会と連携を取り着手する。

ジャンニコーチの日本滞在時コーチセミナーを実施する

７、協会加盟団体指導者との定期的なミーティング

2005 年度 50 名の選手を選抜したが、選手所属団体とのコミュニケーション不足が露呈し、選手を派遣する団体内に混乱をきたしてしまった。今後そのような事態を出来させぬため、派遣団体はもとより協会加盟団体の指導者と定期的なミーティングを持つ。具体的には今後の検討になるが全日本等各団体の集合しやすい時期、または主要な水域で設営することとする。

＜コーチ体制一本化＞

2004 年より契約したジャンニコーチは、怪我等による影響のため世界選手権ではアテネを上回ることは出来なかったが、前述のようにその過程では目覚しい効果を発揮し、北京でのメダル獲得に期待の持てる成果を上げつつある。協会では世界選手権後、前述のコーチ評価会議を開催し、2006 年度から北京に向け A1 チームの強化をジャンニコーチに一本化する事を決めた。また、環境整備のため財政面や医科学面でのバックアップ体制を構築する事と所属チームの理解を得る事が今後早急に解決すべき課題である事を確認した。

＜選手選考方法＞

A1 チームの強化をジャンニコーチにゆだねる中で、選手の選考方法を変更する事とした。

シドニー以降選手の選考にシングルスカルによるロングレースの結果を採用し、選手の絞込みにもシングルスカルを用いてきた。これにより日本選手は艇を進める事の繊細さを身に付け、一定の成果をあげてきた。しかし、反面フィジカル面は優れていても技術の劣る選手の発掘には効果を発揮できなかった。エルゴによりフィジカル面から可能性のある選手を早期より発掘し、所属団体と連携し強化していく仕組みを導入する。また、U23 ではシングルスカルにより選考された選手が直ぐにスイープを漕ぐといったちぐはぐさもあった。スイープの選手は A1 スイープと同様にスイープでの選考期間を設ける事とした。

従来の長沼・瀬田・（戸田）でのロングレースは選手選考基準に採用しないので注意願いたい。

＜A1 男子スイープ・女子スカル・U23 男女　選考方法・スケジュール＞

１２月　プレキャンプ　戸田（12 月 3～8 日　予定）

参加資格　　：プレキャンプ参加資格を各カテゴリー別に以下のように設定する。
軽量級参加選手はエルゴ測定時、キャンプ参加時の体重制限を設ける。
男子 A1 スイープ参加資格：2000m エルゴ漕　6 分 30 秒　75kg
女子スカル参加資格　　：2000m エルゴ漕　7 分 30 秒　62kg
U23 男子軽量級参加資格　：2000m エルゴ漕　6 分 40 秒　75kg
U23 男子ｵｰﾌﾟﾝ参加資格　：2000m エルゴ漕　6 分 25 秒
U23 女子軽量級参加資格　：2000m エルゴ漕　7 分 40 秒　62kg
U23 女子ｵｰﾌﾟﾝ参加資格　：2000m エルゴ漕　7 分 20 秒

＊ 2005 年度東アジア大会・アジア選手権出場者（上記カテゴリー対象選手）は上記参加資格を満たしているものと認定する。

＊ 参加希望者は各所属団体（個人も可）において、11 月 13 日（日）～11 月 20（日）間に 2000mエルゴ漕（Cpt２エルゴメーターTypeＣ、Ｄ使用）を実施。11 月 21 日（月）迄に、氏名・所属団体名・生年月日・身長・体重・エルゴ記録・希望ボート（スカル、スイープは希望サイド）を明記しボート協会事務局宛申し込みの事。（詳細は別途）
上記有資格者はその旨エルゴ記録の代わりに明記の上申し込みの事。
12 月キャンプ参加者名を協会ホームページに掲載する（11 月 24 日（木）予定）。

＊ 12 月４日（日）、キャンプ中に以下のエルゴ漕（以降、選手評価エルゴ漕と記載）を実施する。
選手評価エルゴ漕：各自ウォームアップ後、2000m エルゴ漕、30 分のリカバリー後、4500m（女子 4000m）エルゴ漕、5 分間のリカバリー後、再度、4500m（女子 4000m）エルゴ漕

＊ 上記、選手評価エルゴ漕の結果に基づき、スイープ候補選手（各サイド 12 名、A1 及び U23 ）24 名、男子スカル候補選手 6 名（U23）、女子スカル候補選手 10 名（シニア・

U23）を選抜し引き続きトレーニングキャンプを行なう。（この時点の選抜では軽量級・オープン・U23 のカテゴリーは配慮しない）

＊　キャンプ期間中コーチセミナーを実施する（12 月 3 日予定　詳細別途）

＊　選手所属団体の指導者のキャンプ参加を歓迎する

＊　費用は総て個人負担とする

＊　12 月プレキャンプ実施要項及び申込みは別途通知する

1 月　選手評価キャンプ　戸田（1 月 24～29 日　予定）

参加資格　　：12 月キャンプで選抜された選手。
及び各所属団体（個人も可）において 1 月に独自に実施の選手評価エルゴ漕（上記参照）で顕著な成績を出した選手若干名。記録を自己申告の上必要事項を添え申し込む事。参加の可否は協会で判断し本人宛通知する。
軽量級選手はキャンプ集合時、男子 74kg、女子 61kg とし、キャンプ開始時の計量でクリアーできない選手は参加資格を失う。

キャンプ内容：選手評価エルゴ漕及び評価レース
男子スイープ候補選手トレーニング及び 2 月キャンプ参加選手（12 クルー、24 名）の選抜、男女スカル候補選手（U23 男子 6 名、女子 10 名　合計 16 名）のトレーニング

＊　費用負担は別途定める

＊　1 月選手評価キャンプ実施要項及び申込みは別途通知する。

2 月　選手評価キャンプ　戸田（2 月 15～20 日　予定）

参加資格　　：1 月キャンプで選抜された選手。
軽量級選手はキャンプ集合時、男子 73kg、女子 60kg とし、キャンプ開始時の計量でクリアーできない選手は参加資格を失う。

キャンプ内容：選手評価エルゴ漕及び評価レース
男子スイープ候補選手トレーニング及び男子評価ペアレース。このレースで A1 スイープ 6 クルー（12 名）、U23 スイープ 4 クルー（8 名）を選抜する。
男女スカル候補選手トレーニング及び男女スカル評価レース。
このレースで U23 男子 6 名、女子 10 名　合計 16 名を選抜する。

＊　費用負担は別途定める

＊　2 月選手評価キャンプ、評価レース実施要項及び申込みは別途通知する。

3 月　選手評価キャンプ　未定（3 月 22～26 日　予定）

参加資格　　：2 月キャンプで選抜された選手

軽量級選手はキャンプ集合時、男子 72.5kg、女子 59kg とし、キャンプ開始時の計量でクリアーできない選手は参加資格を失う。

キャンプ内容：2006 日本代表選手選考レース及びトレーニング

男子 A1 スイープ（3 クルー）選手選考レース（2000m）

女子（3 名）・女子 U23（2 名）スカル選手選考レース（2000m）

男子 U23 スカル（3 名）・スイープ（2 クルー）選手選考レース（2000m）

＊　費用負担は別途定める

＊　3 月選手評価キャンプ実施要項及び申込みは別途通知する

＜各カテゴリー別のテンポラリースケジュール＞

スケジュールは今後の予算編成によるところ大きいが、選手及び選手所属団体との協議の上期間・費用負担等含め正式に定める

＜A１　スカル＞

12～2 月　国内強化キャンプ

3 月　欧州強化キャンプ　（下旬または 4 月上旬より）

4 月　欧州強化キャンプ

5 月　帰国　（GW 明けまたは WC#1 参加後）

WC#1　ミュンヘン　ドイツ　26～28 日（参加検討中）

6 月　全日本選手権　8～11 日

WC#2　ポズナム・ポーランド　16～18 日（不参加）

欧州強化キャンプ　（下旬より）

7 月　WC#3　ルッツェルン・スイス　7～9 日

欧州強化キャンプ

8 月　欧州強化キャンプ

世界選手権　イートン・イギリス　20～27 日

12 月　アジア大会　ドーハ・カタール　3～7 日

＜A1　スイープ＞

4 月　欧州強化キャンプ

5 月　WC#1 ミュンヘン・ドイツ　26～28 日（不参加）

6 月　全日本選手権　8～11 日

WC#2　ポズナム・ポーランド　16～18 日（不参加）

欧州強化キャンプ（下旬より）

7 月　WC#3　ルッツェルン・スイス　7～9 日

欧州強化キャンプ
8 月　欧州強化キャンプ
世界選手権　イートン・イギリス　20〜27 日
12 月　アジア大会　ドーハ・カタール　3〜7 日

＜女子＞
2〜5 月　国内強化キャンプ
6 月　全日本選手権　8〜11 日
欧州強化キャンプ（下旬より）
7 月　WC#3　ルッツェルン・スイス　7〜9 日
帰国　国内強化キャンプ
8 月　欧州強化キャンプ（上旬より）
世界選手権派遣　イートン・イギリス　20〜27 日
12 月　アジア大会　ドーハ・カタール　3〜7 日

＜U23 チーム　男女＞
2〜5 月　国内強化キャンプ（毎月 1 週間程度　方法は選手所属団体と協議する）
6 月　全日本選手権　8〜11 日
国内強化キャンプ
7 月　欧州強化キャンプ（中旬より）
ワールド U23　ハーゼンウィンケル・ベルギー　21〜23 日
8 月　全日本大学選手権　24〜27 日

＜U19　男女＞
6 月　全日本ジュニア　16〜18 日　2006 年度派遣選手選考
国内強化キャンプ
7 月　国内強化キャンプ
アジアジュニア　セレターレガッタコース・シンガポール　12〜14 日
8 月　世界ジュニア選手権　アムステルダム・オランダ　2〜5 日